

『平成の大改修』

■トンネル区間の改修内容

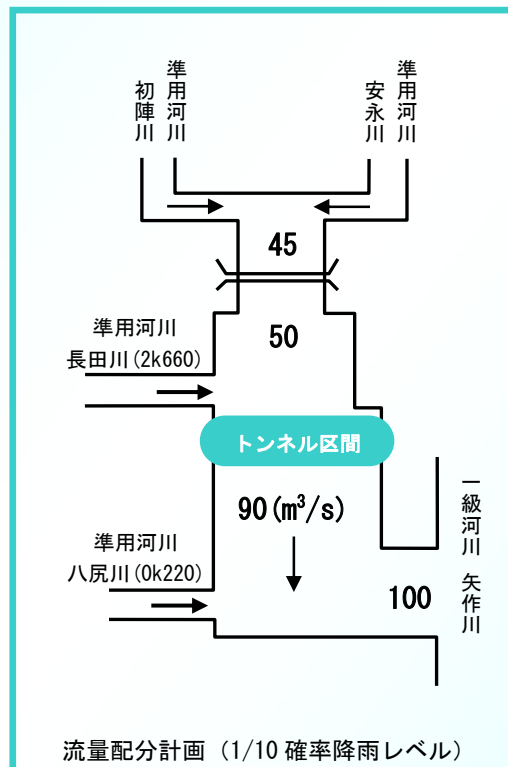
- ・今回の改修では、現在、1秒間に約10m³（立方メートル）の流下能力に対し、1秒間に90m³の水を流すことができるように、新しいトンネルを作ります。
- ・これにより、安永川の流下能力が9倍となり、10年に1回の確率で降る雨（時間雨量63mm）を流すことができますようになります。

■開水路区間の改修内容

- ・トンネル区間上流の掘り込み河道区間では、「やすらぎとふれあいの水辺づくり」を整備の方針として、河川改修をおこなっていきます。
- ・開水路区間では植物や生物の生態系に配慮した『多自然川りづく』の手法により、変化に富んだ水際部を創出し、豊かな自然環境の再生を目指します。

■矢作川合流部の排水樋門建設

- ・矢作川との合流部に建設される排水樋門は、函体が横方向に4連に並ぶもので、ハーモニカのような外観をするものです。
- ・樋門延長は約64mで矢作川堤防に敷設され、明治用水路を下越ししていきます。1函体につき、高さ3.6m、幅5.9mの大きさで、全体で1秒間に100m³の水を流すことができます。
- ・樋門には、魚の通る道である「魚道」を設けることで、魚が遡上（そじょう）できるような川づくりを目指していきます。

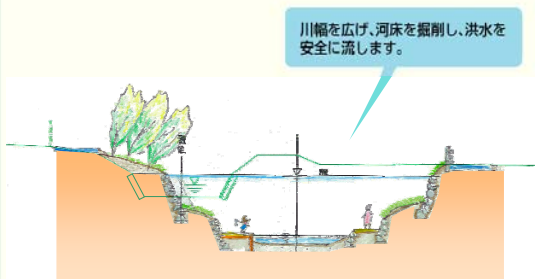


整備方針

- 治水**：概ね10年に1回程度発生すると予想される降雨(1時間63mm)による洪水を安全に流せるようにします。
- 環境**：「魚の住む川」、「心やすらぐ景観」、「自然とふれあえる水辺」をめざした「やすらぎとふれあいの水辺づくり」をおこないます。

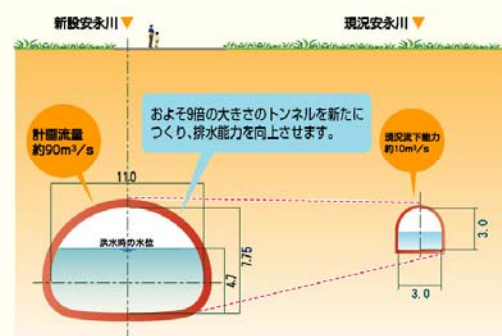
安永川改修計画図

● トンネル上流端～安永川上流端 ●

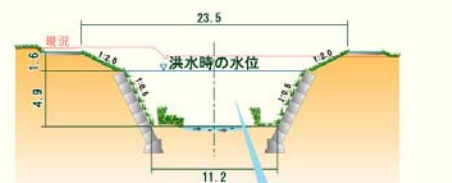


上流開水路断面イメージ (H23 年度詳細設計実施)

● トンネル部 ●



● 矢作川合流点～トンネル下流端 ●



下流開水路断面イメージ (H23 年度詳細設計実施)

新設安永川ルート図

